

第2回 第3次小牧市地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定委員会 議事要旨

日 時	平成28年2月26日(金) 14時～15時40分
場 所	小牧市役所本庁舎 6階 601会議室
出席者	<p><b>【委員】(名簿順)</b></p> <p>柴田 謙治 金城学院大学人間科学部コミュニティ福祉学科教授          山本 和彦 小牧南区長会会長          大西 良雄 小牧市地区民生委員・児童委員連絡協議会篠岡地区会長          前田 光咲子 小牧市地区民生委員・児童委員連絡協議会北里地区副会長          鈴木 道子 北里地域包括支援センター ゆうあい管理者          成瀬 善男 藤栄シニアクラブ代表          松浦 詩子 小牧市ボランティア連絡会会長          長江 啓司 小牧市小中学校校長会 桃ヶ丘小学校校長          羽飼 憲次 小牧市障害者相談支援事業所ふれあい総合相談支援センター相談支援専門員          鳥居 由香里 こまき市民活動ネットワーク理事          松浦 早苗 保健連絡員代表          深堀 眞喜子 小牧ケアサービス まごころ会長          大杉 富孝 一寸奉仕こまき代表          森 健一郎 小牧市社会福祉協議会 地域活動専門員          花村 琴美 公募市民</p> <p><b>【欠席委員】</b></p> <p>桑山 美知代 公募市民</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>入江 慎介 健康福祉部 福祉総務課長          松本 誠一 健康福祉部 福祉総務課庶務係長          落合 眞治 社会福祉法人小牧市社会福祉協議会地域福祉課長</p>
傍聴者	1名
配付資料	<p>資料1 委員名簿・配席表</p> <p>資料2 地域福祉に関する市民意識調査の結果(概要)</p> <p>資料3 各委員の活動紹介</p> <p>資料4 “なぜ、地域福祉が必要か”説明資料</p>

主な内容

<p><b>1. 開会</b></p> <p>(1) あいさつ(柴田会長)</p> <p><b>2. 議題</b></p> <p>(1) 地域福祉に関する市民意識調査の結果(概要)について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事務局より、地域福祉に関する市民意識調査の結果(概要)について、資料2を用いて説明。</li> <li>質疑、主な意見は以下の通り。</li> </ul> <p><b>長江委員)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前の赴任校で地域協議会が設立されており、そこで行われたアンケートにおいて、支援を求める方はたくさんいるし、内容もある。また、支援をしたい方もいるという結果であった。</li> <li>問題は、それらの方々を如何にしてつないでいくか、その仕組みづくりであるとする。</li> </ul>
---

- ・ また、内容についても、より身近な誰もが気軽に手伝えるもの限定することも必要だと思う。
- ・ 例えば、今の学校では、父親ボランティアの方々が縁の下の力持ち的な存在として、イベントのお手伝いのほか、草刈や側溝掃除などにも力を貸していただける方も多くいる。
- ・ このように、地域において、高齢者や障がい者などに対する支援も広がっていくとよいと思う。

#### 柴田会長)

- ・ アンケートの間9に関連する内容のご発言をいただいた。
- ・ 活動の内容や程度を踏まえ、役割分担が必要だといったご趣旨だと思う。

#### 森委員)

- ・ 支援などを活動者にお願ひするとき、お手伝いの方の負担感が気になるところである。そうした負担感なく依頼しやすい活動や仕組みは必要だと考える。

#### 鳥居委員)

- ・ ボランティア活動に参加したことがない方が 55.9%を占めていた。ボランティアをされていて感じる事として、志のある、同じ方がいろいろな活動をしているのが現状である。
- ・ 今後、少子高齢化が進む中、現在の活動者が辞めていっているという現状があり、活動者の裾野を広げる必要があると考える。
- ・ 気軽に参加できる活動、他市では「ちょボラ」と呼ばれ活動されているが、こうした活動の展開を考える必要がある。
- ・ また、自治会の行事への参加が多いということ踏まえ、地域で行うべきことは地域で継続することも必要だと感じる。例えば、以前は側溝掃除を地域でやっており、大人から子どもまで総出でやっていた。こうした活動は横のつながりを持つ機会にもなっていた。
- ・ また、ボランティアの養成講座の充実も必要である。小牧では、こうした講座により、関心ある方が活動をしやすかったこと、また、講座に参加することで知り合った方が結びついたという経緯がある。
- ・ こうした視点を持って、裾野が広がりやすい活動の展開が必要だと考える。

#### 森委員)

- ・ 広く周知し、ボランティアの養成を行う講座は確かに必要であると考えます。
- ・ ただ、全市的な講座だと、どこかでお見かけしたことがある方の参加が多いのが現状である。
- ・ そのため、今後は地域に出向き、実際に行う活動を考え、その活動への協力者を募ることも必要になってくると考えている。

#### 山本委員)

- ・ 近所の大きな公園で盆踊りを開催しているが、その準備を含め、区の役員を中心にやってきたが、来年も手伝ってもよいという方が多かった。要するに、「やってみると楽しい」ということだと思われる。こうしたつながりは重要だと考える。

### 3. 情報共有 “学び”

#### (1) 各委員の活動紹介

- ・ 各委員より、日ごろの活動状況について資料3を用いて説明。

#### (2) “なぜ、地域福祉が必要か”

- ・ 事務局より、“なぜ、地域福祉が必要か”について、資料4を用いて説明。

### 4. 閉会

- ・ 次回は平成28年5月頃以降 開催予定。